

広島県西部周辺の活断層（その1）

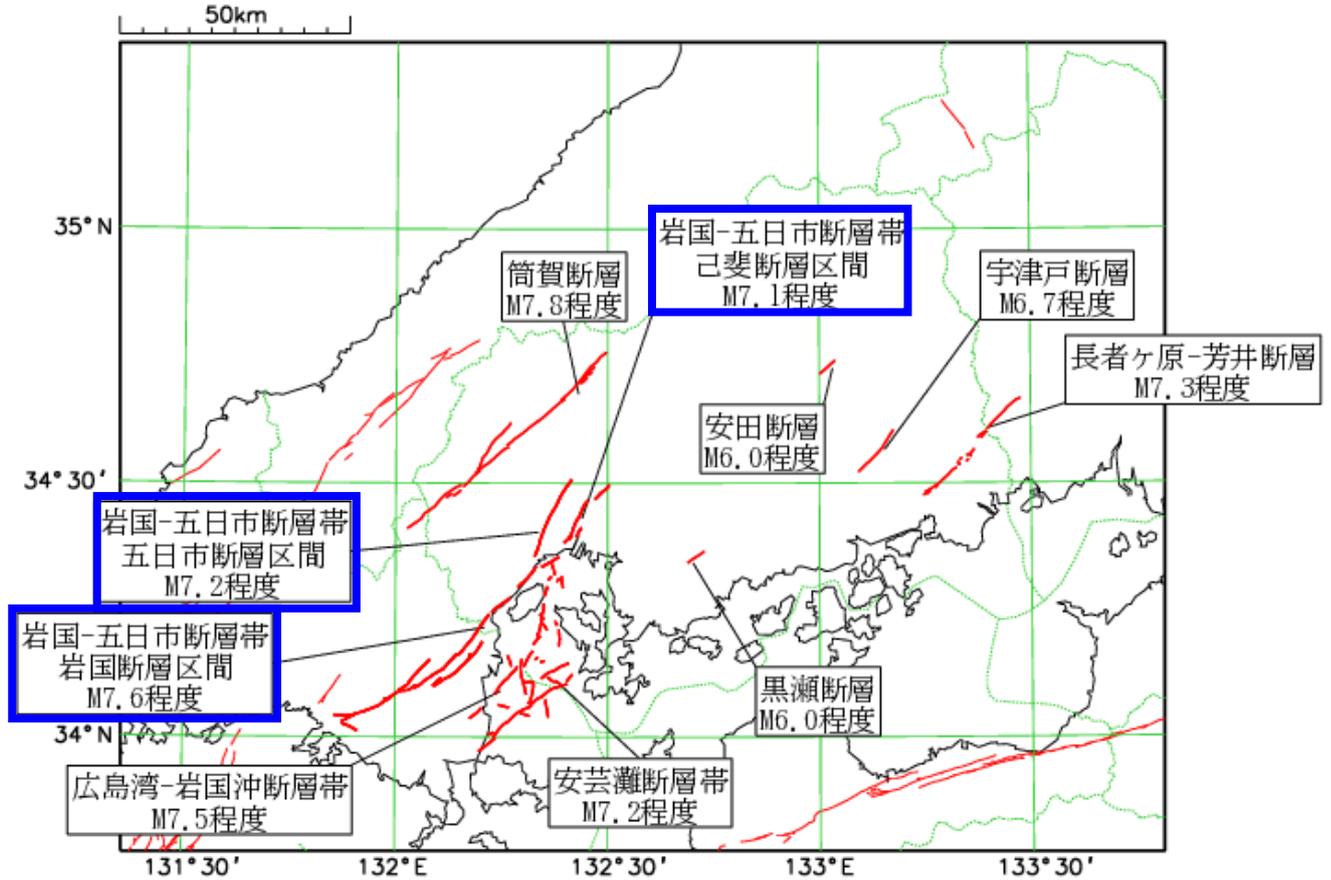


図 広島県周辺の活断層分布図
 活動区間・活動規模M（マグニチュード）は地震調査推進本部の評価による
 （図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す）

活断層：岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）
 地震の規模：M7.1程度
 地震発生確率（30年以内）：不明 Xランク
 平均活動間隔：不明
 最新活動時期：約23,000年前以前

活断層：岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）
 地震の規模：M7.6程度
 地震発生確率（30年以内）：0.03%～2% A*ランク
 地震後経過率：0.6～1.2
 平均活動間隔：約9,000－18,000年
 最新活動時期：約10,000－11,000年前

活断層：岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）
 地震の規模：M7.2程度
 地震発生確率（30年以内）：不明 Xランク
 平均活動間隔：不明
 最新活動時期：7世紀以後、12世紀以前

○地震発生確率が一般・自治体の方々には分かりにくいこと、または、低く捉えられるおそれがあることから、活断層のリスクを正しく理解していただき、適切な防災・減災行動につながるように、長期評価の広報資料に確率に基づくランク分けを導入しています。活断層で発生する地震については、今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記しています。

○地震後経過率：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。